

令和元年度 大田区立大森東小学校 自己評価 報告書

令和2年3月

○ 本校の概要

開校38年 児童数154名、6学級、サポートルーム拠点校 教員数15名(巡回指導教員3名)、スクールカウンセラー1名、 校内研究 研究主題「対話的に学習に取り組む児童の育成」	特別支援教育専門員1名、事務2名、栄養士1名、 用務主事2名、時間講師2名、学習指導講師2名、 特別支援員3名、副校長アシスタント1名、 読書学習司書1名 副主題「各教科等の言語活動の充実を通して」
---	---

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組と今後の改善策 (アンケート回答者数:児童151名、保護者125名)	学校関係者コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に生かす力等を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	【保護者アンケート】 「学校は、これからの社会の変化に生かす力等に対応する子供を育てる工夫をしている(外国語教育、ICT活用、体力向上)」と答えた割合 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	4	○これまでの取組として”対話的に”という点に重点を置き、進められていることから、現代の子供達の必要課題に着目されていると考える。年々コミュニケーション能力の育ちの弱さを感じる今、とても大切な取組であり、その成果が見られていることを感じる。 ○社会の変化に対応する取組について様々な体験活動を行っていることは、子供たちの能力、視野の広がりにつながり、とても良いと感じる。 ○保護者アンケートで90%以上が「これからの社会に対応する工夫をしている。」と回答していることは素晴らしいと思う。 ○タブレットPC80台やこれからの英語教育等、大森東小で工夫して取り組んでいることが伝わってきた。英語が教科になるとのことで今後ますます未来に向けて期待が高まっていくと思う。 ○スマホを持つ子供が増えた。短文で正確に伝える取組はあるのか。 ○コミュニケーションは挨拶から。家庭内での発言が少ない。 ○広い校庭を使つての体力向上の取組を。 ○コミュニケーション能力を育てるのは大変なことでもあるが、授業だけでなく日常生活の中でも育つものと思う。地域でもお力になれることがあるのではと思う。	
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 大森東小「学習のきまり」について、児童に徹底するために繰り返し指導する。	【児童アンケート】 「学習(授業)が楽しい」と答えた割合 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	4	○授業改善プランを意識して学習指導を進めることができた。引き続き改善プランに沿って授業改善を行っていく。 ○「学習カルテ」や「ステップ学習チェックシート」を活用し、児童の学習状況を児童と保護者に定期的に見せながら進めていく。今後家庭との連携を図り、指導を進めていく。 ○大森東小の「学習のきまり」を意識して教育活動を行うことができた。引き続き、「学習のきまり」を校内の共通ルールとして徹底できるように繰り返し指導していく。	○学習意欲を高める取組が子供の習熟度に応じ、丁寧に行われていることを感じる。 ○様々な状況の子供たち一人一人に合わせた指導・学習プランを進められていることで”楽しい”と思えたり、“わかった”と思える子供が増えることは大切だと感じる。 ○授業を参観させていただく機会があり、その際生徒と教師がコミュニケーションしながら、楽しく授業を進めているクラスが多かったように感じた。どのクラスも発言が活発にあり、明るい授業だった。校長先生の命の授業(6年生向け)は一人一人に向けたメッセージのある授業だった。 ○給食試食会を地域の人向けに開催していく開かれた学校と感じました。 ○学習内容のレベルにびびり、保護者参観を多くして。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	【児童アンケート】 「自分にはよいところがある」と答えた割合 (大田教育ビジョン目標値84%) 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	2	○いじめ・不登校対策委員会を機能させ、いじめや不登校の未然防止に努めてきた。今後は、学校生活調査の結果を生かし、児童が健全な生活を送れるようにするために、児童の実態把握を確実にしていく。また、スクールカウンセラーや巡回心理士等と教員が連携して情報共有し、対応する機会を増やしていく。校内委員会、ケース会議の定期的な開催は引き続き進めていく。 ○道徳教育推進教師を中心に、道徳授業の確かな実施及び授業改善を図ってきた。今後も児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るために、各学年の活動だけでなく学校の教育活動全般で一人一人の活躍の場を保障する。具体的には、縦割り班活動(全校遠足、ふるはま遊び、まち清掃、朝の集会活動、縦割り清掃等)、委員会発表、朝会スピーチ等の機会を活用する。	○一人一人が認められ、自信をもち、自己肯定感・自己有用感を高めていくことの重要性をとても感じる。子供の育ちの背景は様々であるが、子供自身が自分を認め、自分が好きであると認められる良いと思う。 ○問題となる行動につながらぬよう、子供の心に目を向け関わることの難しさはともあると思うが、様々な活動や取組を通して、さらに育てていってほしい。 ○「メンタルヘルスチェック」をされているとのことでとても良い取組と感じる。「もうがんばれない」と記入した児童に対して面談をして解決の方向にもっていくこと、児童館でもふと自分の悩みをつづやく子供がいる。気になるときは副校長先生・担任の先生にお伝えさせていただいている。 ○「運動会」や「学芸会」でとても頑張っている姿を見た。「自分のよいところ」をもっと認め、自信をもってもらいたいと感じる。 ○小中一貫校を目指しているのか。 ○プラン1と同じで何かきっかけで自身を知る事があるかも。学校・地域・家庭で育てていきたいですね。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	【児童アンケート】 「運動をもっとしたい」と答えた割合 (大田教育ビジョン目標値60.6%) 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	3	○運動会や体育朝会などの体育的行事では、上級学年を目標として運動に取り組む児童の姿が見られた。11、12月に行った「持久走タイム」では、大田区小学生駅伝大会の出場選手が低・中学年の児童と一緒に5分間走を走った。高学年を目標として、低学年の走る意欲が高まる様子が見られた。 ○休み時間に外遊びをする児童が少ないことが課題である。今後は児童が休み時間に校庭で運動する習慣が身に付くよう、児童が自発的に運動に取り組むような手立てについて検討し、運動したくなるような環境を整える。	○外遊びを好まない現代の子供たちの特徴ともいえる姿は何とか改善させたいと思う。幼児期からの大切な育ちの部分でもあるため、改めてそのつながりについて職員とともに考え、小学校へつなげたい。具体的な取組を継続してほしい。 ○校庭で遊ぶ子供が少なくなってきたこと、休み時間はどのように過ごしているのか気になった。 ○児童館でボール遊び等をするときはとても活気がある。今後も運動の機会を作っていきたいと思う。 ○給食は美味しい、バラエティに富んでるのに家では好き嫌いが減らない。 ○駅伝に向けて朝練の様子を見ていた。とてもがんばっている姿がほほえましかった。一緒に運動できると良いですね。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	【保護者アンケート】 「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」と答えた割合 (大田教育ビジョン目標値65.59%) 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	4	○公開した授業の評価については、真摯に受け止め、授業改善に努めてきた。今後は、さらなる授業改善を図るために、OJTの充実を計画的に行う。OJTの年間計画を年度当初に作成し、若手教員は自己の課題を明確にして授業を公開し、他の教員から指導・助言をもらう時間を設ける。また、主任教諭や主幹教諭は指導テーマを決めて若手教員をはじめ他の教員に授業を公開する。公開授業後は必ず簡単にでも協議会を行い、全体に還元していく。さらに、授業形式以外のOJTについても検討し、持続可能な研修体制を模索していく。 ○年間3回の校内研究授業を通して、研究主題を追究してきた。次年度は、事前研究や事後研究の方法や機会についても検討し、さらなる授業力の向上に努めていく。	○子どもの学習の理解に合わせながら授業を進めながらも指導方法・内容について、常に振り返りを重ねながら、より良い授業改善に努められており、素晴らしいと思う。 ○保育園での育ちのベースが小学校での学習につながっていくよう保育園でもさらに努力したいと考える。 ○校長先生が毎週発行している「東っ子タイムズ」で学校の様子がとてもよく分かる。特に「朝会の話」は今学校で問題になっていることを取り上げ、投げかけている。保護者にとっては、自分の子供と振り返ることができ、とても貴重なタイムズと思う。毎週の発行、校長先生ありがとうございます。
プラン6 学校・家庭・地域ともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	【児童アンケート】 「地域の行事に参加している」と答えた割合 (大田教育ビジョン目標値51.1%) 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:50%以上	2	○「東っ子だより(校長室だより)」の毎週発行、学校ホームページの写真ページ開設など、学校の教育活動を保護者や地域に積極的に紹介することに努めた。 ○学校支援地域本部と連携し、サマースクールを40講座開講し、延べ645人の児童の参加があった。 ○地域の保育園、福祉園、老人会との交流会や町内会との合同地域清掃、神社のお祭りに参加するなど、地域行事とのかかわりを大切にできた。今後も児童が地域の行事に意欲的に参加できるように働きかけていく。	○校長先生をはじめ、教職員皆様の考えや取組を可視化することにより、より具体的な理解と、協力連携へとつながっていると思う。 ○地域とのつながりをとても大切にされながらの様々な取組は大変すばらしく強いネットワーク、地域とのつながりが子供たちの育ちを支えていると感じる。 ○大森東は地域の行事がたくさんあり、自治会・町会のかかわりが多いと感じる。児童館で行われる夏休みの行事には児童が参加している。 ○現在(平成30年度より)乳幼児に特化した児童館となっている。小学生の居場所としての在り方を確立していきたいと思う。また、児童館で行っている地域ネット会議「すくすくネット」の会議に校長が出席し、会員になってもらっている。 ○東っ子タイムズで学校情報が良く判る。 ○スピーチは大変良く、子供達の成長力に驚き、大賛成。 ○学校の活動の情報が、団地自治会や朝会に伝わる工夫をしたい(掲示板の活用等)。 ○子供の居場所づくりに地域が協力していきたい(町会の集会室の開放など)。